



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/15 (月)				海の日			米: ニューヨーク連銀製造業景況感指数 (7月) 欧: ユーロ圏鉱工業生産 (5月)
7/16 (火)	+ 1,100	▲ 31,700	▲ 30,600	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行償還 (個人向け)	CP等買入 ▲ 300 国債補完供給 + 20,700		日: 日銀政策決定会合議事録 (2014年1-6月開催分)
7/17 (水)	+ 1,000	▲ 6,000	▲ 5,000	流動性供給		CP等買入 + 3,000	米: ページブック 米: 鉱工業生産 (6月) 欧: ユーロ圏CPI (6月)
7/18 (木)	トン	+ 11,000	+ 11,000				日: 貿易収支 (6月) 米: 景気先行指標総合指数 (6月)
7/19 (金)	トン	▲ 3,000	▲ 3,000	国債発行 (GX5年)	気候変動オペ ▲ 34,000		日: 全国CPI (6月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比3,200億円増加の545兆8,500億円から始まった。その後、税揚げ、国債発行等の要因により、12日は542兆8,500億円 (速報) まで減少し越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.077%から始まった。その後もビットサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3M物が0.15%~0.24%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、16日に日銀政策決定会合議事録 (2014年1-6月開催分)、18日に全国CPIの公表がある。海外では17日に米鉱工業生産 (6月)、欧CPI (6月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.07 ~ 0.078
1M	0.15 ~ 0.20
2M	0.15 ~ 0.30
3M	0.15 ~ 0.30
6M	0.30 ~ 0.50

<レポ>

足許GCは週初+0.05%~+0.06%を中心に出合い、6m短期の発行があった9日は+0.08%近辺まで上昇した。以降は+0.06%~+0.07%で推移し、3m短期の発行があった週末は+0.08%近辺で取引された。

SC取引は2年438~462回債、5年149~169回債、10年350~375回債、20年180~189回債、30年65~83回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.030 ~ 0.050
CP 3M	0.10 ~ 0.30

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆5,800億円で、週間償還額の1兆3,600億円を上回った。発行残高は先週末時点の24兆3,410億円から7月11日時点で24兆1,396億円に減少した。発行市場は鉄鋼、電気機器、小売業、不動産業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で0.1%台前半から0.20%台後半での出合いであった。

来週の償還額は、8,100億円となっている。発行市場は、連休により営業日数が少ないものの、お盆越えの発行ニーズが例年見られるため、相応の発行が見込まれる。

発行レートは、7月30・31日に開催される日銀金融政策決定会合での政策修正の動向を睨みながら、ショートターム選好の地合いが予想される。1Mを中心として、0.10%台後半から0.20%台前半の出合い、3M超の案件については0.30%台後半の出合いも散見されるであろう。

CP等買入オペは25日に、予定通り3,000億円でオフアされた。結果は按分レート0.191% (前回0.167%)、平均落札レート0.200% (同0.184%) と前回比で按分レート、平均落札レート共に上昇した。

<TDB>

9日の6M (1242回債) の入札は、最高落札利回り0.0476% (前回債0.0877%)、平均落札利回り0.0396% (前回債0.0858%) となった。

12日の3M (1243回債) の入札は、最高落札利回り0.0180% (前回債0.0080%)、平均落札利回り0.0132% (前回債0.0032%) となった。

来週の入札は、18日に1Y、19日に3Mが予定されている。